

第1章 小国町のまちづくりの流れと横川ダム

1-1 白い森構想における横川ダム周辺の位置付け

本町は、1985 年を基準年とし、2000 年を目標年次とした新小国町総合計画において、自然教育園構想を打ち出し、本町の豊かな自然の保全と活用を目指して「中央総合レクリエーション基地」、「飯豊山麓リゾート基地」、「朝日山麓リゾート基地」の3つのゾーンを設定して整備を進めてきた。

この構想は、さらに「白い森構想」へと発展しながら、横川ダム湖周辺は「湖畔の森ふれあいゾーン」に位置付け、町づくり施策体系においても、横川ダム周辺整備事業の推進を挙げている。

今後は、町づくりの全体計画の中で位置付けた当該地域の振興方針と連携したダム湖周辺整備の実現と、流域住民全体を含めた有効活用のソフト事業の展開が求められる。



図 1-1 小国町全町における関連施設の分布と横川ダム湖の位置付け

1-2 ダム湖周辺地域のこれまでのまちづくりへの取り組み

1-2-1 東部地区のむらづくりの歴史

横川ダム上流地区は、ダム建設に伴って移転した市野々と下叶水、さらに集落再編によって移転した西滝、東滝などを含み、現在残る上叶水、下叶水、新股、河原角、下大石沢、上大石沢を合わせた全体を東部地区と称している。

この地区は、昭和 58 年に第 22 回農林水産祭において「むらづくり部門」で天皇杯を受賞した地域であり、むらづくりにかける情熱が熱く、水害や豪雪、過疎化の加速度的進行など、多くの困難を乗り越えて頑張ってきた。

以下の表は、東部地区に関係する災害等も含めて、まちづくりに関する活動や主なできごとをまとめたものである。

表 1-1 東部地区のドキュメント

年月	東部地区に関連する主なできごと
S35.8	小国町と津川村が合併：合併当時の東部地区人口 1,492 人、世帯数 270 戸
S38.1	38 豪雪：米坂線も 10 日間に渡って不通となり、陸の孤島となる
S42.8	羽越水害（降水量 600 mm）：耕地被害戸数 156 戸、耕地被害面積 4,673 アール、米坂線の復旧に 3 ヶ月を要した
S45.11	滝集落全戸（36 戸）が集落再編による集団移転
S46.	高野、豆納、赤沢集落が集落再編による集団移転
S50.8	叶水基幹集落センター落成：山村振興特別対策事業
S51.4	叶水基幹集落センター運営協議会発足
S51.8	第 1 回東部地区盆踊り大会実施：S54 年まで 4 回開催、以後集落単位で実施
S53.4	東部地区山菜生産出荷組合設立：組合員 80 名
S53.11	東部地区振興研究会発足：農業、林業、水産、交通、エネルギー、住宅、生活環境、克雪、観光（雪、山菜）、民宿など全般的な研究をする会
S56.4	横川ダムの予備調査に着手
S57.11	第 1 回東部地区ふるさとまつり実施：菊と盆栽展示会、民謡を聞く会、ヘリコプターによる遊覧飛行、子供もちつき大会、ゲートボール大会、ソフトボール大会、和牛肉試食会など
S57.11	東部地区地域づくり講演会：森 巖夫先生
S58.2	東部地区地域づくり研究集会：助言者森 巖夫先生、長井普及所
S58.6	第 1 回東部地区山菜まつり実施：地区外の人との交流を目的に実施
S58.10	第 2 回東部地区ふるさとまつり実施：菊と盆栽展示会、子どももちつき大会、カラオケ大会、ソフトボール大会、和牛肉試食会など
S58.11	農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞：東京明治神宮会館
S59.3	東部地区地域づくり研究集会：年代別意見発表会、絵・作文表彰式
S59.6	第 2 回東部地区山菜まつり実施
S59.7	歴史の道黒沢峠手入れ作業実施：草刈り、土砂除去作業、全地区が協力
S59.10	第 3 回東部地区ふるさとまつり実施、天皇杯受賞記念碑除幕式：絵・作文の募集、天皇杯受賞記念碑除幕式、バレーボール大会、子どももちつき大会、菊と盆栽展示会、和牛肉試食会、菊と盆栽展示会など
S60.12 ～61.1	羽越工事事務所が予備調査結果について地元説明会を実施
S61.3	町議会に横川ダム建設対策特別委員会を設置：委員 18 名

S62.5	横川ダムの実施計画調査に着手
S62.10	町が横川ダム対策室を設置
S63.1	横川ダム対策協議会が発足：水没予定地の居住者による組織
S63.3	新小国町総合計画が策定され、自然教育圏の形成を目指して、当地区は「ふるさとこども村」として位置付けられる：叶水集落センターを核とした、山村の生活文化の伝承や、横川ダムの湖畔・湖面を多目的利用の促進など
H2.3	横川ダム水源地再建計画が策定される：ダム上流地域を子供たちの体験学習空間を含めた「ぶな文化ふれあいの里」として「ふるさと文化むら」の整備を目指す
H2.6	横川ダム工事事務所発足、横川ダムの建設に着手
H.3.3	「横川ダムの建設に関する基本計画」決定、官報告示
H3.12	横川ダム建設事業に伴う損失補償に関する協定調印：建設省北陸地方建設局長、横川ダム水没者団体連合会長、副知事、町長など出席
H4.6	付替道路の工事に着手：主要地方道川西小国線
H4.11	水没予定地域の離村式：横川ダム対策協議会主催、市野々、下叶水、上叶水の一部の約80人が出席
H7.3	横川ダム水源地域整備計画策定：水源地域対策特別措置法の適用を受けて、県が中心となって策定
H8.9	横川ダムランドデザイン検討委員会設置：委員長篠原修東大教授他8名
H12.2	町道横川ダム湖岸線付替工事着手
H12.8	主要地方道玉川沼沢線付替工事着手
H13.11	主要地方道川西小国線開通
H15.3	本体工事着手
H16.11	主要地方道玉川沼沢線、町道横川ダム湖岸線付替道路開通
H17.5	横川ダム定礎式
H18.8	完成後ダム湖に沈む旧道を歩く「湖底ウォーク」開催
H18.11 ～12	水没予定地にある町文化財飛泉寺の大銀杏移植

このように昭和30年代から40年代後半にかけての大きな自然災害や奥地集落の集団離村などによって、集落の存続の危機とも言える状況が、かえって地域の連帯意識を高め、むらづくりに対する活発な取り組みへとつながっていった。

昭和50年の叶水基幹集落センターの完成を機に、叶水基幹集落センター運営協議会（後に東部地区振興協議会と改称）が発足し、集落の代表者や各組織、グループの代表者などからなる「むらづくり」の推進体制が整った。そして、協議会は東部地域の過疎から脱却と、若者が定住できる環境の整備を目指して、産業の振興や地域のコミュニケーションづくりに積極的な活動を展開してきた。それらの一連の活動が昭和58年の天皇杯受賞として実を結んだわけである。

その後は、横川ダムの建設が決まり、市野々や下叶水の集落移転など、東部地区の状況は大きく変化し、それまで東部地区が一体となって進めてきたむらづくりの活動は、横川ダム建設にかかわる内容等が中心となって現在に至っている。

1-2-2 横川ダムに関連するこれまでのまちづくり構想

本町では、横川ダムの建設に伴って生れる新しい環境を活かした周辺地区の整備構想や、地域の活性化を推進するための構想を、全体のまちづくりの一環として位置付けて提案してきた。

これらの構想や計画におけるハード面の整備においては、実現には至らなかったものが多いが、その理念を尊重しながら改めてレビューし直し、さらに現在の集落構造等の課題を踏まえて、今後の横川ダム周辺の地域づくりの提案に生かしていくものである。

1) 「水源地域整備への提言」(平成元年3月)

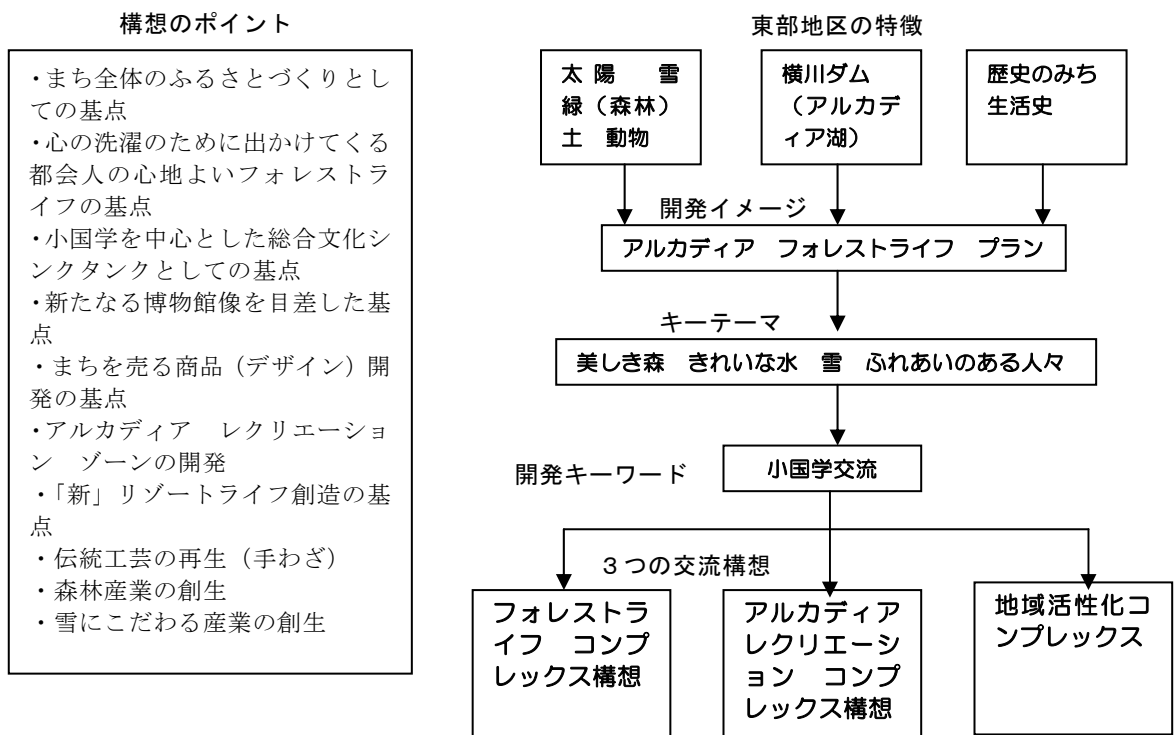
□ アルカディア フォレストライフ プラン構想

横川ダム(アルカディアダム)をめぐり、地域にすむ人々の活動や交流を動的に捉え、この人々を支えている全山・森林を背景として展開される様々な営みを示す意味を端的に表現する言葉として設定する。

この構想は、森、水、土、人、動物、空気が泉のごとく湧いてくるイメージ構想とし、新しいインフラ整備が本町発展の確かな礎となるように展開するものである。

➤アルカディア フォレストライフとは

山々の森林の軸(源)が、空間、土、水、動物、そこに住む人々への泉として全体を包括することである。さらに、東部地区が新たなるアルカディアづくりをめざすことをイメージしている。



□ フォレストライフ コンプレックス構想

➤位置づけ

自然（雪、森）、人、地域、交流、発信プラス展示、研究これらを総合したフォレストライフを確立するために、それぞれの機能をもった施設を、ハードの連携はもとよりソフトを内蔵し連携させる。施設群は、総合的なしかも全体の流れの中でかたまりとなって動くもの。人と人、人と物、人と〇〇といった関係を地域から地域へ、そして外へ向かって拓くことが責務であり、その関係が強くなるにしたがい、施設のアイデンティティは確立される。

➤目差すもの

人々の心の支えとしての機能を果たし、豊かな国際性と先進性を備えると共に、小国町の地域活性化に貢献し、地域居住者や広域からの人々の文化的・学習的・交流的・体験的な総体としてのつながりに寄与し、郷土愛を深める施設としての役割を全うしなければならない。

➤機能

①博物館機能（天然学習センター）

- ・ 教化・展示系、管理・運営、研究・調査系

②まちづくりを軸にした地域内交流機能

- ・ 町内のすべての資料が保管され、町内の文化財ネットワーク、各種開発企画計画等の研究機能をもつ
- ・ 他町村からの資料収集や地域総ぐるみでできるソフト開発がなされる

③地域間交流機能

- ・ 製作、研修、活動活性化のための場。地域にすむ人、都市交流者の家と創作場の有機的な連携を図る。また、地元の工芸や民俗芸能などについて都市の人と地元の人とのコミュニケーション活動等が開催できる機能をもつ。

④地域発信機能

- ・ 時代性、生産性、市場性を総括したセンター機能

⑤小国学を中心とした総合文化シンクタンク機能

- ・ 小国町の風土学である小国学を軸に、これからの小国町のあるべき姿の研究や、場来の小国をつくる小さな子供たちなどへの研究機能などをもつ。

□ アルカディア レクリエーション コンプレックス構想

➤位置づけ

アルカディアダム(横川ダム)や周辺一帯、さらにダム上流の全集落は、地域の人々のために、子供たちのために、そして交流者のために、自然環境、歴史文化的にもレクリエーション環境に十分である。

地域の自然環境、人間資源、生活そのものが味付けとなり、それにプラスしたレクリエーション活動形態により、ダム建設を契機とした新たなる小国町独自のレクリエーションコンプレックスが成立する。

➤ 目指すもの～3つの交流形態～

① 長期山村留学としての交流

都市環境とは違った、大自然の中で様々な活動をすることで子供たちの心の安定とやる気を養う。

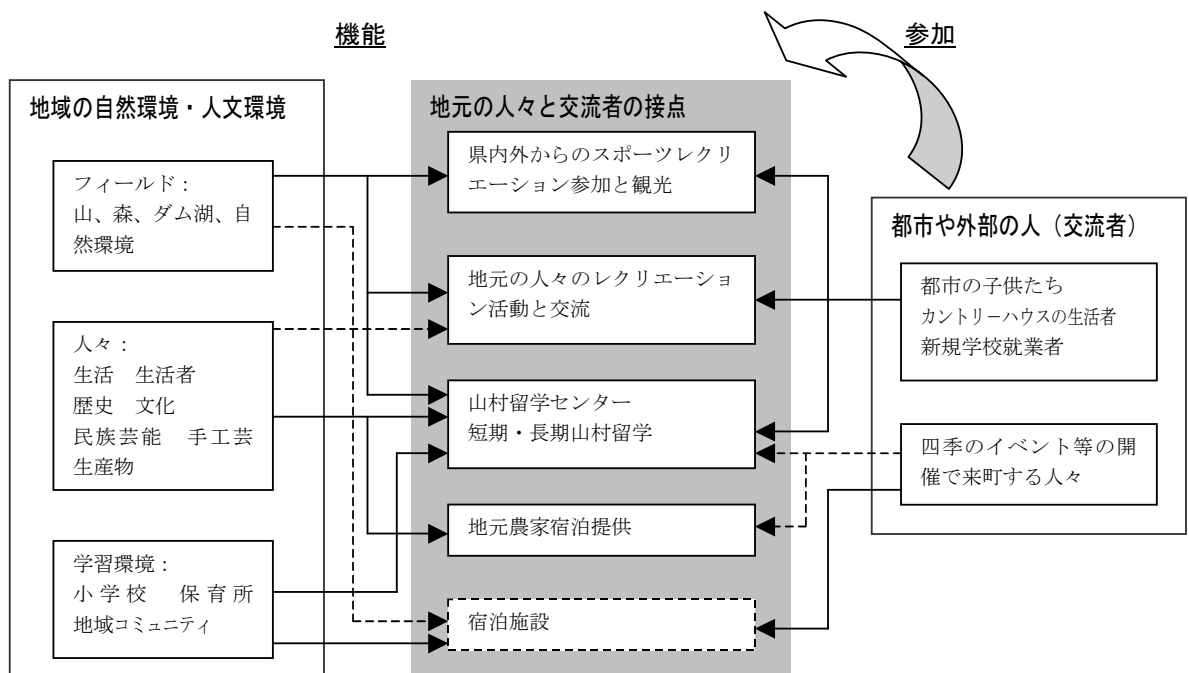
② 短期留学及び集団宿泊学習として一定の期間訪れる人との交流

郷土を中心とした社会、自然環境教育の教材とカリキュラムの開発・実践

③ 町内の資源を活かしたレクリエーションを通じて不定期に訪れる人との交流

町内の資源をベースにしたレクリエーション活動の展開

➤ 機能



□ 地域産業活性化コンプレックス構想

➤ 位置づけ

上記の交流構想を基に、ダム建設等の新しい社会的なインパクトを勘案しながら、町内に多くのビジネスチャンスをつくり出すことと、地域おこしセンターともなりうる新しい交流の形成を通して地域の活性化を図っていくものである。

➤ 計画目標

地域の活性化は、小国町の生活環境・教育・文化・観光・商業等の生活・生産に関わるすべてが背景となったモノの開発・商品化である。

➤ 目指すもの

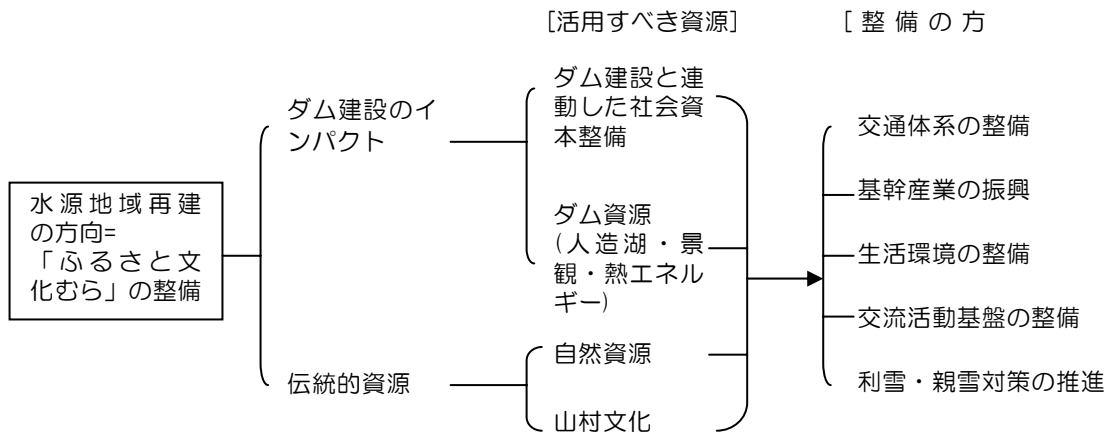
地域を通しての開発・整備の戦略が立てられていないこと、組織・体制づくりが十分に整備・活用されていないことに着目し、計画理念を「開発・整備のシステムづくり」とし、ソフトとハードの一体的地域づくりを目差す。

2) 「横川ダム水源地域再建計画」(平成2年3月)

小国町の町づくりの最も大きな柱である「自然教育圏構想」をより具体化していくために「ぶな文化ふれあいの里」として小国町全域の整備を推進していくことを提案。

そのなかで横川上流域一帯は子供たちの体験学習空間を含めた「ぶな文化ふれあいの里」整備の一貫として「ふるさと文化むら」として地域の機能を位置づけ、自然教育圏構想と整合性のある地域整備の推進実現を目指すものとする。

➤ 水源地再建を目指した地域整備の方向



交流活動基盤の整備の多様な国内交流等の推進の一貫とし、横川ダム周辺に整備される施設のなかで叶水地区に「民話の館」が計画され、大滝地区には300haの町有地を利用して自然体験交流施設として「山村文化の森」の計画が上げられている。

施設の概要：

施設名	事業主体	事業の概要	計画目標年次 (平成年度)
		事業規模・内容	
叶水地区 民話の館	第3セクター	語り部の間、民話・民具、年中行事資料展示室、郷土料理体験室、談話室、民話ホール、レストラン等	10
大滝地区 山村文化の森	第3セクター	山村交流館(宿泊研修施設)の整備 大規模別荘住宅の整備 こどもアスレチックフィールド等の整備 散策路、休憩所等の整備	14

3) 「小国町横川ダム周辺整備構想」(平成6年1月)

横川ダム周辺地区の活性化整備計画として、5つの主要ゾーンにわけその整備方針と基本的な整備メニューを検討している。

ゾーン名	方針	主な計画目標
叶水地区： 民話の里ゾーン 「人の力、人の和」	地域の人々の日常生活空間を大切に環境整備を図るゾーンであるが、周辺のそれぞれのゾーンのネットワークの要であり、ベースキャンプとなる施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の向上（集落排水の浄化施設） ・地域の経済基盤の強化（農林産物の加工出荷設備と体制整備） ・ふるさと伝承館（地域の生活文化や技術の伝承、生産活動の施設整備） ・地域住民の参加体制づくり ・コミュニティハウス（地域体験交流施設） ・地域景観の形成、保全 ＊ネットワークとしての車道整備
横川ダム護岸整備： 親水ゾーン 「天の恵みの水、地の利」	水面を活用した「湖畔の子ども休暇村（ファミリーキャンプ）」	<ul style="list-style-type: none"> ・管理センター ・ロッジ、コテージ村 ・シャワー、トイレ及び食事棟 ・オートキャンプ場 ・カヌー及びレジャーボート等
大平地区： 恵みの森ゾーン 「地の恵み、人の力」	大平の牧場跡。実のとれる木、木材や林産物を生産し収穫する場 拠点地区の一つ	<ul style="list-style-type: none"> ・木材生産、特用林産物などの生産活動展開の場の整備 ・素材生産 ・森林の育成と保全を行う ・わらび園 ・ビジターセンター ・林道、駐車場、作業所、休憩所 ・遊歩道の整備
大滝山： 22世紀の森ゾーン 「時(天)の流れ、人の力(和)、地の利(特性)」	親子を対象に森林の中でレクリエーションと森林に関する学習と研修を展開する。 「森を守り、創り、育てる」 「森の学ぶ」「森に遊ぶ」 拠点地区の一つ	<ul style="list-style-type: none"> ・林業実習と研究を基本とした林業実習展示林整備 ・森林の育成と保全 ・休憩展望 ・レクリエーション施設 ・林道及び駐車場、ビジターセンター、作業小屋、休憩所、遊歩道等の整備
滝・河原角地区： 冒険の谷ゾーン	溪流と深い山の景勝地であり、これらを生かした子どもたちの自然の中での体験と遊びの場とする。できるだけ自然に近づいた状態で子どもたちの豊かな創造性と野外体験を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察路 ・オリエンテーリングコース ・サバイバルコース ・休憩施設（山小屋） ・溪流釣り ・沢のぼり訓練コース ・野営場